

一領事館ってビザを発行するところでしょ？

これが大抵の人が抱く領事館の印象だと思います。でも実際、何をしているのか。それは入って見ないとわからないのではというのが、ここでのインターンを始めたきっかけでした。小さい頃から教師になることを目指し、アメリカでも教育を勉強してきた私を知っている方なら、海外の政府機関で働くというのはイレギュラーに思えたかもしれません。しかし、日本から視野を広げることで見える側面があるのではという仮説と国際機関へ携わるかもしれない将来の可能性を考えた時、この機会を目の前にとってもワクワクしました。

インターンは、2020年9月中旬から12月中旬までの3ヶ月間、経済・文化広報班にて行われました。他にもたくさんの班がある領事館の働きを自分の目で見る良い機会なのではという期待とは裏腹に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で終始リモートでのやりとりとなってしまいました。しかし、そんな中でも担当の方の計らいで数名と会話をして仕事の様子を聞くことが叶い、またみなさんの会話から職場の雰囲気等を感じることもできました。それだけでなく、希望したJETプログラムの説明会にも参加させていただき、タスクも私の興味のあるものを中心に出してくださるなど、やりたいことができる環境を整えてくださっており、リモートでも充実した時間を過ごすことができました。

この3ヶ月間、様々な作業を行ってきましたが、特に二つの大きなプロジェクトがありました。一つ目は、コロナ禍でのオンライン学生交流再開に向けた当館支援の検討資料の作成です。要は、交換留学やホームステイプログラムによる姉妹都市交流が叶わない今、領事館として現在可能な交流方法を提示することで交流促進しようというプロジェクトです。これは、パンデミックの影響で留学したくてもできない学生のために、オンラインでできることをしてあげたいという私の思いから任された業務でした。具体的には、過去に日本・アメリカ各地で行われたオンラインでの姉妹都市交流・国際交流の例を調べ、その例をリスト化して日英両言語でまとめたのですが、わたし一人では思いつけないような方法やアイデアがたくさん集まった上、その中でも現実的・効果的な交流方法の傾向も見えてきたのは興味深かったです。その後、担当の方々が姉妹都市交流等に関わりのある地域へ送信してくださり、多くの良い返事があったと教えてくださいました。実際に新たな動きを始めたところもあったようで、国際交流を再開したい・活発にしたいと思っておられる団体・機関等の後押しをすることができた、とても貴重な経験となりました。

二つ目は、モンタナ州の農林水産概要資料の作成です。父が林業に関わっていることもあり、わたしの出身である北海道に似て農林水産業の盛んなワシントン州・モンタナ州のそれについても調べてみたいと思っていたため、この業務を提案していただきました。今回はモンタナの農業に焦点を当て、各農産物の販売額や輸出入についての統計を集め、情報を整理し資料にまとめました。統計資料等には慣れていませんでしたが、専門知識を自分で調べ、できるだけ正確にまとめられるよう努めました。このとき意識したのは、なるべく最新のデータを活用することに加え、今後この資料を更新したいと思った方がすぐに今回参考にした統計や資料が見つかるよう、出典を細かく記載することでした。ワシントン州に2年半以上も住んでいるのに、ワシントン州のじゃがいもが日本のマクドナルドのフライドポテトに形を変えていることも知らなかったわたしにとって、この作業はわたしが留学した地域についてさらに知り日本人々に伝える良い機会となったと思います。

最後に、業務内容に関わらず、これらの作業をリモートで経験したことはとても大きかったと思います。すぐに質問できない環境の中で、どこまで自分で決断し、どこから担当の方へ判断を委ねるか。誘惑だらけの家の中で、どうやって自分を律し作業に集中できる環境を作るか。相手が見えない中で、どのタイミングでコミュニケーションを取り状況を把握するか。マニュアルにはできないこれらのコンフリクトの行き先を日々探りながらも、作業内容や疑問点を具体的に言葉に表す、参考資料を添付するなど、丁寧でこまめなコミュニケーションの大切さを改めて認識しました。

この経験は、大きくわたしの将来の道を変えることになるかもしれません。このインターンを通して学んだ知識、技術、教訓。これらがわたしの人生の中で生きた時、再度この在シアトル日本国領事館の方々とお会いできること、あわよくば一緒にお仕事ができることを、楽しみにしております。領事館職員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。